

テーマ

春日は一つ、三つの輪

目標

- ・ 地域と協働して取り組む活動を充実させること。
- ・ 各校園が横のつながりをさらに深め合うこと。
- ・ 地域人材の積極的な活用を推進させること。

今年度の取組紹介

主な取り組みとしては、子どもが主役となって活動する「フェスタ」、学習環境を整える「環境整備」、子どもたちの健全育成のため、地域の様々な立場の方々が集まって、情報交換や意見交流、あるいは研修なども行う「地域別懇談会」などがあげられます。

「フェスタ」は、地域・学校・保護者（家庭）が協力して企画運営を行い、「春日ふれあい文化祭」・「済美っ子祭り」・「大安寺フェスタ」・「済南ふれあいフェスタ」と、校区のそれぞれの小中学校で開催されています。子どもたちがいきいきと活動し、地域の方々とふれあえる場、学校園の枠組みを超えて交流のできる場となっています。

「地域別懇談会」は、年間3回開催されており、『地域の子どもは地域で守る』理念のもと、今年度で96回を数え、子どもたちの健全育成に役立っています。



「春日ふれあい文化祭」



「地域別懇談会」

今年度のまとめ

校区の各小中学校で開催された「フェスタ」では、子どもたちが主役となり地域の方々と共にいきいきと活動する姿が見られました。そして、普段学校では体験できないような様々な体験を通して子どもたちと地域の方々と交流も深まりました。さらに、当日活動いただいた地域の方々が「子どもたちのために」と和気藹々と協力し取り組んでいらっしゃる姿から子どもたちは、「協力の大切さ」や「人をおもいやる心」、あるいは、「言葉では表せない・伝え切れない」、たくさんの「大切なこと」を感じ取ることができました。また、地域の方からも子どもたちと共に活動・交流するなかで、「楽しかった」・「元気をもらった」などの感想も寄せられ、学校にとっても、地域にとっても得られるものがたくさんありました。

「地域別懇談会」は、地域・学校・家庭（保護者）の情報交換や意見交流の良き機会であったと共に、様々な角度から子どもたちの健全育成について研修する機会ともなりました。

来年度に向けて

今後地域と学校の協働をさらに円滑に進めるために、さらに協議会委員やボランティアスタッフと教員との交流を深め、お互いの「顔がわかる」関係作りをするための工夫が必要であると考えています。

テーマ

春日ステッププラン

目標

基礎学力の向上と規範意識の育成の課題に向けて、多様な観点から地域と連動した取り組みを推進する。

今年度の取組紹介

主な取り組みとして、学習意欲と基礎学力の向上を目指した放課後補充学習会「わかるわかる学習会」、低学力傾向克服の一環としての「読書推進活動」、また、地域に出向き、普段取り組んでいる部活動で地域の人々と交流する「出前で部活」などがあげられます。

「わかるわかる学習会」は、(本校の卒業生や地元の大学に通う)大学生を指導者として、3年生全員を対象に希望者を募り、週2回(火・木)放課後(16:30~18:30)行う学習会で、基礎学力の定着をはかるため、マンツーマンによる個別指導を基本とする「コツコツコース」と、自学を基本とし積極的に質問することで発展的な学習に取り組む「ドンドンコース」に分かれて学習しています。

「出前で部活」は、校区の保育園・幼稚園や公共施設、奈良市内の老人施設などに出向き、スポーツや文化的活動を介して地域の人々と交流する中で、自尊感情を醸成することを目的とした取り組みです。



「わかるわかる学習会」



「出前で部活」(ギターマンドリン部)

今年度のまとめ

放課後補充学習会「わかるわかる学習会」には、希望した生徒が、9月から1月までの5ヶ月間、週2回(1回2時間)参加しました。第1回目から最終回まで脱落者もなく参加し続けることが出来ました。生徒たちの学習に取り組む姿からは、「わかるようになりたい」思いや、「できるようになりたい」思いを感じ取ることができ、さらに「わかった」「出来た」という思いは次への学習意欲につながっていきました。また、「出前で部活」は、生徒たちが日頃から親しみ、取り組んでいるスポーツや、文化的活動を介して地域の(幼児から老人まで様々な)人々と接することで、「たよられている」「役に立っている」といった自己有用感を感じることができた良い機会となりました。

来年度に向けて

今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も、『学習への意欲回復と基礎学力の定着、自尊感情の醸成と自律・共生の集団づくり』をキーワードとした取り組みを継続して実施します。特に「わかるわかる学習会」については、地域のネットワークを広げることや地元の大学に働きかけることなどで、学生指導者を増やし、さらに充実した取り組みとなるよう努力していきたいと思います。

テーマ

奈良大好きせいびっ子

目標

済美・奈良の「人・もの・こと」を題材とした学習活動（世界遺産学習）を各学年で実施する。

心豊かな子どもを育てるため地域の教育力を生かすとともに、教育環境を整備する。

地域の伝統や自然を愛する心を養いそれらを守り育てていく態度を養う。

今年度の取組紹介

2年生 わくわくさんぽ せいびの町

自分が見つけた「済美の町のすてきなところ」を紹介し合い、全員で町探検をしました。済美の町にはすてきなところがいっぱいあることを知りました。その後「町のすてきな人探検」に出かけました。手打ちうどん・螺鈿細工のおじさんのところなど、14ヶ所をグループ別で探検し、「町のすてきな人発表会」で保護者に紹介しました。その人たちと触れ合い、探検させてもらって、済美の町にはすてきな人がいっぱいいることを知り、子どもたちはますます済美の町が好きになりました。

**6年生 未来に残したい「美しい奈良」の風景を見つけよう**

江戸時代、奈良の美しい風景とされた南都八景について知り、実際に現地に行って調べてみると、今はもう見られない風景があることが分かりました。そこで、現代の「新・南都八景」を設定するために約1000人にアンケートをとり、未来に残したいと思う8つの風景を選びました。選定する過程において各自がその風景について調べたり、保護者や地域の方々に説明したりする活動を通して、身近なところにも美しい風景がたくさんあることに気づき、大切に守っていきたいという意欲をもつことができました。この取組は、世界遺産学習全国サミットにおいて発表しました。



今年度のまとめ

本年度も「済美で学んだことを誇れる子ども」を育てるため、済美・奈良の「人・もの・こと」を題材とした学習活動（世界遺産学習）に全学年で前年度までの成果を生かしながら取り組みをすすめました。毎年お世話になる地域の方々も、よりわかりやすく説明をしていただきました。児童からも保護者からも、「済美や奈良の町が好きになった」という評価が見られ、「こんなにすてきな地域や奈良を守っていきたい」という思いが、児童の中に育まれてきています。

来年度に向けて

地域には児童の興味・関心を高め、その学習活動を支援していく教育力があります。今までから、このような地域の協力を得ながら活動をすすめてきましたが、前年度までのことを省みながら事前の話し合いをより深めること、新たな済美・奈良の「人・もの・こと」を見いだすことにより、来年度からもより児童の心を豊かに育て、済美・奈良を誇ることでできる児童を育てる学習をすすめていきたいと思えます。

テーマ

大安寺っ子、地域で学び、つながろう！！

目標

校区・地域におられる様々な方々との出会いや触れ合いを通して、人と人がつながることの大切さを学ぶとともに、地域社会から学ぶことの大切さを身に着けることを目標に事業に取り組む。

今年度の取組紹介

夏休みに5回の図書室開放や業間休みに図書室開放に協力していただいたり、児童の委員会活動にも参加し子どもと一緒に図書整理やカバーかけの作業をしていただきました。また「お話の会」の読み聞かせは全クラスで2回実施しました。

「大安寺から学ぶ」事業においては、地域の民生委員・万年青年クラブなど各種団体の協力のもと多くの人との関わりを大切にしながら、体験学習や出会いを通して交流を深めました。1年生では、あやとり・竹馬・おはじき・けん玉などの昔の遊び、2年生では、大安寺を見学しての世界遺産学習、3年生では、農家の暮らし・昔の暮らしを子どもたちが直接地域に出向きカメラやビデオで記録したりインタビューしたりするなど、直接地域から学ぶことができました。



今年度のまとめ

読書環境の整備活動など、日々の活動の積み重ねで、週1回の朝読書や「お話の会」の読み聞かせでも、集中して読んだりお話を聞いたりする児童の姿が多くみられるようになり、読書に親しむ機会が広がりました。

多くの「地域の人」との関わりを大切にしながら、体験学習や出会いを通して交流が深まり、子供たちが顔見知りになり、あいさつできる児童が増えました。また万年青年クラブの方々からは、児童と交流することで『元気なれて楽しい』という声をいただいています。今後もこの取り組みを大切にしていきたいと思えます。

来年度に向けて

旧校舍解体・バンビーホームの新築により運動場の環境が大きく変わります。より落ち着いた学校生活ができるように近隣地域の方々の協力も得て環境整備に取り組んでいきたいと思えます。

テーマ

子どもでつながる「チームせいなん」

目標

- ・各学年に応じた体験活動や地域の方々とのふれあいや交流を通して言葉や心を耕していく。
- ・人と人のふれあいや出会いを大事にし「自分大好き・人が大好き」な子どもを育てる。
- ・外的な環境整備を地域の方と共に行い「子どもたちが生き生きと活動できる学校」を目指す。

今年度の取組

家庭科の「玉結び」「玉留め」、ミシンの使い方の授業に学習支援ボランティアの力を発揮していただきました。班ごとに1名以上のボランティアが入っていただくことにより、個々の児童のつまずきに素早く気づいて対応し、安全にかつ効率よく学習することができました。児童は、優しく教えていただくボランティアを母親のように感じながら安心して学習することで地域の人々のぬくもりを感じることができました。ボランティアの方々は、授業の様子や児童の真剣な態度にふれることで学校をより身近に感じていただくことができました。



(学習支援【家庭科】)

ふれあいフェスタは、PTAや自治会、地域の方々と共に入念な計画のもとで実施し、実りの多い事業として大成功でした。児童による学年ごとの音楽発表、春日中学校吹奏楽部による演奏、バザー、模擬店、餅つき等たくさんのプログラムで1日中地域の方々とのふれあうことができました。児童は、音楽発表に向けた努力や成果を認められる



(ふれあいフェスタ【餅つき】)

ことにより自信を持ち、PTA、自治会、地域の方々、そして学校教職員は、互いに協力し合える姿にさらに強い絆を感じ、地域と共に歩む学校づくりのあり方を確認しました。

今年度のまとめ

子どもたちにとってのよりよい学校・環境づくりについて語り合う下地がさらに厚みを増し、ふれあいや交流の場を通してコミュニケーションの機会も年々増えつつあります。その中で児童は、人と人のふれあいや出会いを大事にしながら言葉や心を耕すことができていると感じます。自分も人も大好きになる心を成長させ、本校が取り組んでいる自尊感情の向上をめざしてさらに取組を進めていきたいと思ひます。

来年度に向けて

学年ごとの体験活動は、児童が楽しく学ぶことができ効果を上げています。特に家庭科実習は、その学習支援活動を保護者の方にしていただくことで、学校や子供たちの様子を肌で感じてもらえる良い機会となりました。これまでの事業の成果を元に、今後はさらに登下校中の子供たちを見守る安全ボランティアと花壇の手入れ等をお手伝いいただく環境ボランティアの確保を進めたいと思ひます。

テーマ 幼稚園で一緒に遊ぼう、楽しいよ！

目標 様々な人との交流を通して感動体験を味わい、元気いっぱいの心と体を育む

今年度の取組紹介

○ 未就園児親子登園（うさぎ組）

当園が地域の子育ての拠点としてその役割を更に充実していくことが大切であると考え、年間計画（年間22回）を作成して取り組みました。在園児と一緒に遊んだり、園行事に参加したり、制作活動やリズム遊び、運動遊び、読み聞かせ（おはなしの会の方）、講演会（子育てについて）を行います。毎回、地域の方に活動支援をしていただいていることで、未就園児やその保護者が安心して活動に参加し、在園児もかかわりを楽しんでいます。



○ リズムで遊ぼう（土曜参観）

リズムや曲に合わせて全身を動かしてふれあい遊びをすることで、心や体がほぐれ、様々な人とかかわりをもちコミュニケーション能力が養われていくと考え、フィットネスインストラクター講師を招聘しました。小学校の広い体育館で地域の方や保護者と一緒に、体を動かしたりふれあいを楽しんだりバルーンを膨らませたりして遊びました。



今年度のまとめ

子どもたちは、様々な人（地域の方・保護者・未就園児とその保護者）との交流やかかわりを通して感動体験を味わい、豊かな心が育ってきています。未就園児親子登園では、園環境にも少しずつ慣れ、入園を楽しみにするようになってきています。在園児保護者からは、我が子の生き生き活動する姿から子育ての喜びを味わい、「土曜参観での活動はとても効果的で、普段体を動かす機会がなかったので、これからは少しの時間でも子どもとのふれあいを大切にしていきたい。」等の感想をいただきました。

地域の方と継続したかかわりの中で、幼児は自らあいさつをするようになり、その姿を温かく受けとめ、親しみを感じていただいています。

来年度に向けて

- 当園が子育て支援の拠点となり、地域の方々や保護者とコミュニケーションを取り合い、楽しんで子育てができるよう支援の充実を図りたいと思います。
- 様々な人と感動体験を共有できるよう指導計画の見直しを行い、活動内容の工夫をしていきます。

テーマ 笑顔でつながろう！元気を広げよう！ふれあいの輪**目標** 様々な人々が親しみ集える機会をもち、地域に明るさと元気を発信するふれあいの場として輪を広げる幼稚園づくりをする。

今年度の取組紹介

- 年間3回の「園児お茶会」では、講師先生のご指導で、保護者と一緒に「お茶会」を楽しんでいます。3回目の1月30日には、いつも協力していただいている地域の方々を招き、5歳児と一緒に点てたお茶を飲んでいただく「ありがとうの会」を初めて開催しました。5歳児のお点前は、4歳児の時から経験があって地域の方も驚かれるほど上手になり、日頃から幼稚園のために力をくださっている皆さんに感謝の心を込めてお茶を点て、お礼の気持ちを表す良い機会となりました。また、地域の方々も、温かい目で見守ってくださり、「子どもたちの学んでいる姿がよくわかった」「素敵な会に呼んでいただいてありがとう」「また一緒に楽しく遊びましょう」と喜んでいただきました。



- 「親子絵本の日」には地域コーディネーターの方から、「絵本の読み聞かせ」や「手遊び」「手品」などいろいろな催しをしていただいています。今回、子どもたちは、未就園児親子登園ひよこ組の3歳児やその保護者の方と一緒に楽しいひとときを過ごすことができました。



「見る・聴く・話す・感じる心」をみんなで楽しく共有する機会となり、話に聴き入っている子や真剣な表情で見ている子、「幼稚園でいっぱいお話して欲しいから来てね、待ってるよ」と次回に期待をもって話す子などが見られました。

今年度のまとめ

今年度も、地域の方々や保護者、近隣校園と一緒に様々な保育活動を通して経験や体験を積み重ね、かかわりを深めることができました。子どもたちの笑顔が家庭や地域に元気を広げ、様々なふれあいを通して感じた楽しさが、確かな育ちとなって豊かな心や健やかな体を育んだと考えています。元気いっぱい遊びや活動に参加し充実感を味わった子どもたちと、明るく元気に活動する姿を見て、子育てに一層喜びを感じた保護者、幼稚園教育の大切さや必要性を感じていただいた地域の方々とのつながりがより深まってきています。

来年度に向けて

心身ともに健やかで心豊かな子どもを地域・家庭・園が協力、連携しながら育てていくために、今年度の反省・評価をふまえて、実態に応じた保育内容の充実を工夫して計画していく必要があると思われまます。特に、健康な体や「五感」を大切に育てることを目標に取り組んでいきたいと考えます。